

10月22日(火)

パンの種のように

聖書朗読 マタイ 13:31-33

イエスは、また別のたとえを話された。「天の御国は、パンの種のようなものです。女が、パン種を取って、三サトンの粉の中に入れて、全体がふくらんで来ます。」
マタイ 13:33

イースト(酵母)は大きな変化をもたらします。イーストなしでは生地は膨らみません。パンは平らなままです。しかし、イーストを少し加えるだけで、大きな変化が起こります。生地が膨らむのです。これが、イーストがもたらす変化です。

イエス様は、御国はからし種のようにであると仰いました。すなわち、小さなからし種が芽生え、やがて木となり、鳥がその枝に巣を作る程大きく成長する、と仰ったのです。このように、とても小さなものであっても、その「小さなもの」に神様の力が働くとき、その「小さなもの」は大なるものへと変えられていくのです。

ですから、私たちにとって必要なことは、私たち自身を神様にゆだね、神様の力で私たちを変えて頂くことです。それが、本日の聖書箇所にある二つのたとえ(からし種のたとえとパン種のたとえ)で教えられていることではないでしょうか。パウロはコリント人への手紙第一において、様々な罪について触れています。偶像礼拝の罪、性的な罪、むさぼりの罪、等です。しかし、そのような罪を犯してしまった人々であっても、神様に心を向けて神様に自分自身をゆだねていくならば、彼らは大きく変わることが出来るのです。

人が変えられていく過程には、時間がかかる場合もあります。どんな種にも、「芽が出る時期」が定まっています。イーストが生地を膨らませるのにも、一定の時間が掛かります。ですから、私たちが神様に自分自身をゆだねていくときも、焦らずに「神様の時」を待ちましょう。神様は、必ずあなたを変えて下さいます。

讚美歌 333 主よ、われをば

祈り 神様、全能なるあなたを賛美いたします。私たちがあなたにすべてをゆだねていくことが出来ますよう、お導き下さい。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

アラバマ州オペリカ／ブルース・グリーン

10月23日(水)

いつも気にかけて下さるお方

聖書朗読 マタイ 25:14-30

その主人は彼に言った。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。」 マタイ 25:21

私の親戚の中で、大学に進学した者は居ませんでした。私が十代の頃、炭鉱の町で育った私のような少年にとっては、大学教育は夢のまた夢のようなものでした。しかし、二つの出来事が私を突き動かしました。一つはイエス様のたとえ話(本日の聖書朗読箇所)との出会いです。私が通っていた教会の方々は、このたとえを私に教えて下さり、「神様から与えられている賜物は、神様のために最大限活用すべきだ」と教えて下さいました。私は、神様から与えられたどんな賜物も大切に用いることの大切さを学び、学ぶ機会が少しでもあるならば、その機会を大切にしたいと思うようになりました。

二つ目の出来事は、ある日曜礼拝のあと、ラルフというクリスチャンと話をした時のことです。「クリスチャンの大学に行きたいという思いはありませんか？もし行きたいのであれば、私がお手伝いしましょう」と言ってくれたのです。このように、私の背中を押して下さい、大学進学への道を備えて下さった神様に、心から感謝です。

みことば(主が語られたたとえ)によって、私は、私に与えられた賜物を大切に用いるようになりました。ラルフの親切なお申し出のお陰で、大学進学という大きな一歩を踏むことが出来ました。このように、人生の方向性が定まらない時、神様は、みことばを通して、そして私たちの周りの人々を通して導いて下さることがあります。神様があなたに与えて下さった賜物はどんな賜物でしょうか。その賜物を、神様のために大切に用いましょう。

讚美歌 II 編 188 きみのたまものと

祈り 神様、あなたが与えて下さった賜物を用いることが出来ますようお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

ウエストバージニア州 ヴィエナ／ハロルド・シャンク

10月24日(木)

心から感謝を捧げよう

聖書朗読 マタイ 26:1—13

人の贈り物はその人のために道を開き、高貴な人の前にも彼を導く。

箴言 18:16

父の日や母の日になると、多くの子どもたちが親にプレゼントを差し出します。プレゼントは、学校で先生に指導されながら作った絵かもしれませんし、図工の時間に作った作品かもしれません。或いは、親以外の家族がお金を出し合って買ったプレゼントの場合もありましょう。

ある時私は、私の子供から高価な香水をプレゼントされ、その香水はその子が一人でお小遣いを貯めて買ったものだと知り、大変驚くとともに、心動かされました。「大切なお小遣いを使わなくてもよかったのに・・・」と思う人もいるかもしれませんが、大抵の人は、そんな心温まるプレゼントを素直に頂いて、(アメリカ人の場合は)その子にキスをしたり抱きしめたりして、感謝を伝えることでしよう。

このように、時に子供は、私たちの思いもよらないような行動に出て、私たちに感謝を伝えようとするものです。つまり、(高価な香水をお小遣いを貯めて買ったように)私利私欲を全く無視した愛の行動に出ることがあるのです。

本日の聖書朗読箇所「香油を捧げた女性」も、子供のように主イエスに香油を捧げたのでした。そして主も、その女性の捧げものを喜んで受け入れて下さいました。香油は非常に高価でしたが、捧げた女性は、私利私欲を全く無視した愛の行動に出たのです。

神様の子供として、私たちも神様に感謝の思いを捧げたいと思います。神様の尽きない慈しみと恵みに対して、私たちも「香油を捧げた女性」のように感謝をお捧げ致しましょう。

讚美歌 391 ナルドのつば

祈り 神様、あなたの御名の栄光のために全てを捧げます。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

カリフォルニア州 サンタバーバラ/シャリン・ムーア

10月25日(金)

キリストの血潮のほかなし

聖書朗読 マタイ 27:22—25

しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血は全ての罪から私たちをきよめます。
Iヨハネ 1:7

1953年の名作映画『ザ・ローブ』の主人公は、イエス様を十字架につけるという任務を任されたローマ兵マイケルスです。誰かを十字架につけるという任務が初めてだったマイケルスは、とても悩みました。そして任務遂行後、ふと十字架にもたれかかると、イエス様の血が一滴彼の手に落ちるとい、とても痛ましいシーンがあります。もちろんこれはフィクションですが、イエス様の十字架刑という実際の出来事について、私たちに考えさせるシーンだと思います。

本日の聖書朗読箇所ピラトは、イエス様の死を要求する人々の前で手を洗うことで自分の責任から逃れようとしていました。しかしピラトの行動は無意味だったと言わざるを得ません。なぜなら、イエス様を十字架につけたのは、私たちすべての人の罪の結果だからです。

イエス様が十字架にかけられて息を引き取られたことを考えると、心が震えます。しかし、イエス様の血潮と十字架上の死によって、私たちの罪はきよめられ、私たちは義とされるのです。聖歌 447 番の歌詞にあるように、(私たちの罪をきよめることができるのは)「キリストの血潮のほかなし」なのです。イエス様が私たちのためにして下さったことを、改めて感謝致しましょう。

聖歌 447 罪のけがれを

祈り 親愛なるお父様、私たちの罪のためにイエス様を与えて下さったことを感謝します。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

サウスカロライナ州 イルモ/フィリップ・アイチマン

10月26日(土)

呼ばれています

聖書朗読 マルコ 3:13—21

あなたがたも、それらの人々の中であって、イエス・キリストによって召された人々です。
ローマ 1:6

こんな会話を想像してみてください。「家が火事です! 逃げないと!」との呼びに対して、「ちょっと待って、もうすぐお皿洗いが終わるところなの」との返事が返って来る——こんな会話は現実にはあり得ないはず。避難は急を要することだからです。イエス様からの呼びかけに応答することも、それと少し似ていて、「急を要すること」だと言えます。

イエス様からの呼びかけに応答することは、私たちににとって一番大切なことの一つだと言えましょう。マルコ3章には、イエス様による弟子たちの任命について書かれています。弟子たちは、イエス様から(弟子となるよう)呼びかけがあった際、直ちに従いました。漁師だった者は網を捨て、取税人だった者は徴税所を後にして、救い主・イエス様に従ったのです。彼らは、直ちにイエス様に従う必要がありました。なぜならば、イエス様を通して神の救いのご計画が正に成就しようとしていたからです。そして、弟子たちはその神様のご計画の中で用いられることになるからです。

私たちも、イエス様の呼びかけに応答致しましょう。イエス様の呼びかけに従う人は誰でも、主イエスの家族である、とイエス様は仰います(マルコ3:34—35)。イエス様が弟子たちを招かれたように、現代を生きる私たちも、神様から(弟子となるよう)呼びかけられています。神様の呼びかけに、応答致しましょう。

讃美歌 II編 83 呼ばれています

祈り 私たちに呼びかけて下さる神様。心の耳を澄まし、あなたの御声に聴き、応答することが出来ますよう、お導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

コロラド州 リトルトン/ティム・ケリー

10月27日(日)

神様の家族

聖書朗読 マルコ 3:20—34

すると、王は彼らに答えて言います。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」
マタイ 25:40

「家族」という言葉は、どの国の言葉でも美しい響きがあるのではないでしょう。なぜなら、「家族」という言葉は、保護、慰め、温かさ、休息、そして愛を思い起こさせる言葉だからです。

では、神様の家族とは誰でしょう? イエス様は言われました。「神のみこころを行なう人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです」(マルコ 3:35)。神様は、キリストを通して、私たちを神様の家族として下さいます。キリストにある者は皆、神様の家族です。そして、その神様の家族は「教会」として、共に歩みます。私たちの教会には、病気や身体の弱さで、思うように活動したり行動したりすることが出来ない方々もおられます。そのような方々は、暗い気持ちで一日を過ごす日もありましょう。私たちは、神様の家族として、そのような方々のために出来ることがあるかもしれません。「どんなことが喜ばれるか」と考えてみましょう。電話や手紙で連絡を取ってみたり、ちょっとしたプレゼントを贈るのも良いアイデアかもしれません。また、状況が許すなら、近くの公園等にお散歩にお連れすることも良いかもしれません。神様の家族のために、出来ることを考えてみましょう。

*親切と善意、そして清らかさを求める人生こそ、勝利の人生です
だから、私は神に心を向け、日々神と人とに仕えます
(ウィリアム・ゴールデン[訳注:讃美歌の作詞者])*

讃美歌 II編 26 ちいさなごに

祈り 神様、困難な状況におられる教会の家族を助けられるようお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈りいたします。アーメン。

コロラド州 ベルビュー/ロバート・ブランド